

国内電力会社の超高压電気所で 3D ソリューション「ADitor™」を適用 ～新たなアプローチで、インフラ業界の課題解決へ～

S W C C 株式会社（本社：神奈川県川崎市、代表取締役 CEO 社長執行役員：小又哲夫、以下「当社」）は、国内電力会社の超高压電気所を対象に、当社が Regana 事業で展開するデジタル映像ソリューション「ADitor™（アドアイター）」を適用し、業務効率化への活用可能性を確認しました。

今回の取り組みでは、これまで設備の 3D データ取得に用いられてきた専用機材を使用せず、現場で使用されているドローン等で撮影した映像から 3D データを取得しました。当社は「ADitor™」を通じて、インフラ業界における 3D データの活用を広げ、「技能継承」「効率化」「安全」の現場課題の解決に取り組んでまいります。

■ADitor™について

「ADitor™」は、ドローンやアクションカメラ等で撮影した映像から、設備や空間を 3D データ化するソリューションです。

3D 化した設備は PC や AVR®ゴーグル上で自由な視点から確認でき、寸法確認、設備配置の検討、工事計画、機器搬入時の干渉確認など、現場情報を必要とするさまざまな業務に活用できます。

今回、複数の超高压電気所に「ADitor™」を適用しました。一方の超高压電気所ではサッカーコート 3.5 倍を超える規模の大型設備を 3D 空間上に再現し、別の超高压電気所では、これまで図面や現地調査などで把握していた設備間の離隔距離を、3D データ上で瞬時かつ明瞭に確認できるようにしました。

■超高压電気所（大型設備を 3D データ化）

超高压電気所では、サッカーコート 3.5 倍を超える規模の広大な電力設備を、現場でドローン等により撮影した映像から 3D データ化しました。広範囲に設備が配置された大型施設を 3D 空間上に再現することはこれまで例がなく、設備全体を俯瞰するとともに、任意の場所へ視点を移動して設備の配置や現場状況を確認することができます。

また、地上にてアクションカメラで撮影した映像により、さらに詳細な設備の状態を確認できることから、将来的な設備管理やリスクマネジメントへの活用も可能です。



【3D データ化した超高压電気所設備の画像】

■超高压電気所（設備間の離隔距離を一目で確認）

超高压電気所では、これまで図面や現地調査などを重ねて把握していた充電部の離隔距離の確認に、ADitor™を活用しました。

3D データ化することで、設備同士の位置関係や離隔距離を 3D 空間上で直感的に把握することができ、これにより、工事や設備の増設・更新時に必要となる現場状況の確認や事前検討を、迅速かつ分かりやすく行う用途への活用が期待できます。



【3D データ化し、離隔を可視化した超高压電気所の画像】

ADitor™は、設計・検討業務の効率化への活用に加え、関係者間での現場情報の共有や、安全性を考慮した事前検討など、設備に関わるさまざまな業務へ対応が期待できます。

■今後の展望

当社は中期経営計画「Transformation for Growth SWCC 2030」を推進するなか、新たなソリューションブランドである Regana 事業を 2030 年度までにグループの新たな成長ドライバーとして確立し、持続的な企業価値向上を目指しています。インフラ市場では、高度経済成長期に導入された設備の更新に加え、AI の普及や再生可能エネルギーの推進に伴う設備導入の増加が見込まれています。Regana 事業を通じて、「技能継承」「効率化」「安全」の課題をデジタル技術によって解決する新たなソリューションの実現に取り組んでまいります。

■SWCC株式会社について

1936 年の設立以来、電気や通信が安心して使える社会を支えてきました。現在は、エネルギー・インフラと通信・コンポーネントの 2 つのセグメントをコア事業としています。新しい事業創造に挑戦し続けることで総合電線メーカーの枠を越えてきた当社は、モノづくりを起点にして社会課題に向き合うソリューション提案型の価値創造企業へと進化しています。SWCC は 2026 年に創立 90 周年を迎え、今後もグローバルに挑戦を続ける 100 年企業に向けて「変革」と「成長」を続けてまいります。

「いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。」

詳細については、[SWCC のウェブサイト](https://www.swcc-g.com)をご参照ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

SWCC 株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 広報グループ
inq-sonota@swcc-g.com